



保全対策としての営巣地(人工巣)創出

自然性の豊かな場所や多様性の高い環境において建設事業を行う時、付近に希少猛禽類が営巣しており、保全対策が求められるケースがあります。その際、工事影響範囲から離れた場所へ猛禽類の営巣地を移動させたり、新たな営巣地を提供する手法の一つとして、猛禽類の営巣地(人工巣)を創出する技術を提案します。

また、利用状況をモニタリングするために、リアルタイムで映像を確認できるカメラの設置などの取り組みの一部を紹介します。



里山に生息するオオタカ



代替巢の設置

オオタカが好む景観などの営巣環境や営巣木の条件を、現地調査・既存資料を基に解析し、適地に人工巣を設置します。



オオタカの成鳥

テリトリー内に設置した人工巣に訪れた成鳥。オオタカはテリトリー内に複数の巣を持つことがあります。



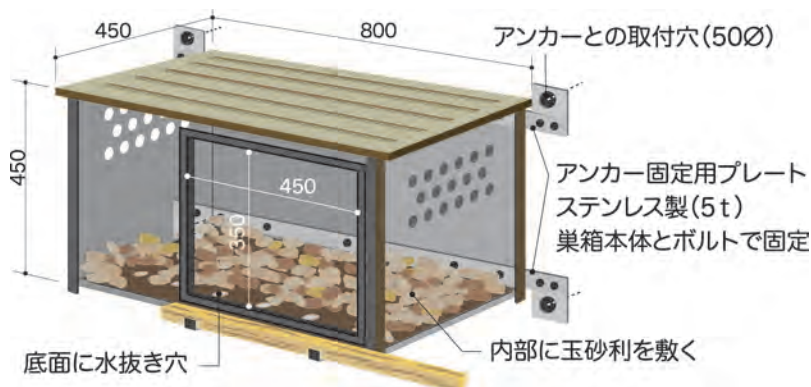
オオタカの幼鳥

テリトリー内に設置した人工巣に訪れた幼鳥。巣立った幼鳥はテリトリー内で成鳥から餌を受け取ります。

崖地に生息するハヤブサ

人工巣の構造

設置が容易な巣箱タイプを採用しました。
市販のアルミ製ベンチ型収納庫を利用加工し、安価で製作しました。



代替巢の設置状況



設置方法 強度を確保するため、巣箱に金属金具を取り付け、アンカーボルトで崖面に固定しました。

現場吹付法砕崖面や落石防護金網施工崖面など、様々な場所に設置できます。

新しい技術『馴化』に取り組んでいます

猛禽類の多くは適切に対応すれば、繁殖中であっても工事を続けることができます。私たちは、そのために『馴化』と呼ばれる手法を用いて、工事と繁殖の両立を実現しています。

巣から遠い場所から工事を始めたり、少しずつ作業時間や作業量を増やしてみ、彼らが怒ったり威嚇したら、作業を止めてスッと引く。こうした手順を繰り返すことで、彼らのほうが優位な立場にいると思わせ、徐々に工事に馴れさせるのです。

馴化への理解を深めていただくため、私たちは勉強会を開いたり、予行演習なども行っています。



人と自然との架け橋を目指して

私たちは、北海道から本州の平地～山岳地に至るまで、あらゆるフィールドで調査を行っています。その内容は、大気環境、水環境、自然環境、景観など、さまざまな調査・分析・評価を行っています。そうした経験を通して、いつも感じることは、その地域の方々が身近な自然の希少さ、大切さに気が付いていないことです。このため、身近な生き物の存在や大切さを伝え、人と自然との架け橋となることも、私たちの重要な役割だと考えています。

自然観察施設の展示支援



周辺の自然環境の特徴や生き物などを紹介・解説するため、自然観察施設内の展示やレイアウトを検討しました。展示用の昆虫や植物の標本、解説用のパネルや動画などのほか、写真集やパンフレットを作成しました。

木育活動…「希望」を「きぼう」でプロジェクト



道内各地の木育教室などで、小さな「木棒＝きぼう」に東北へのメッセージを書いてもらうプロジェクトに、“木育マイスター”として弊社職員が参加しました。これまでに、岩手県久慈市立久喜保育園、宮城県県民の森中央記念館へきぼうを集めたプールを贈呈しました。